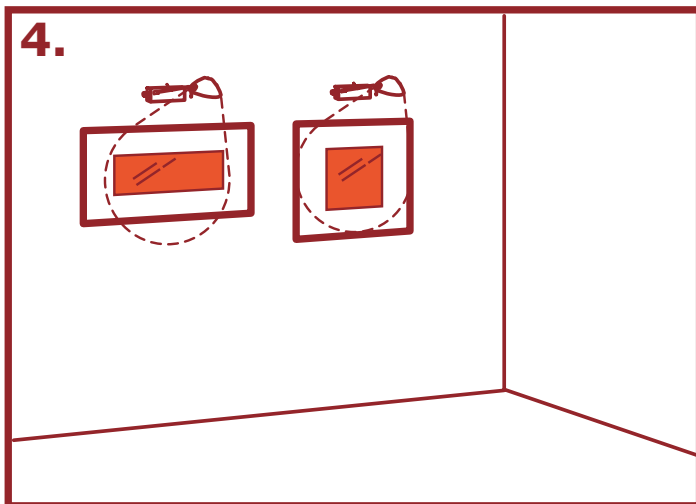
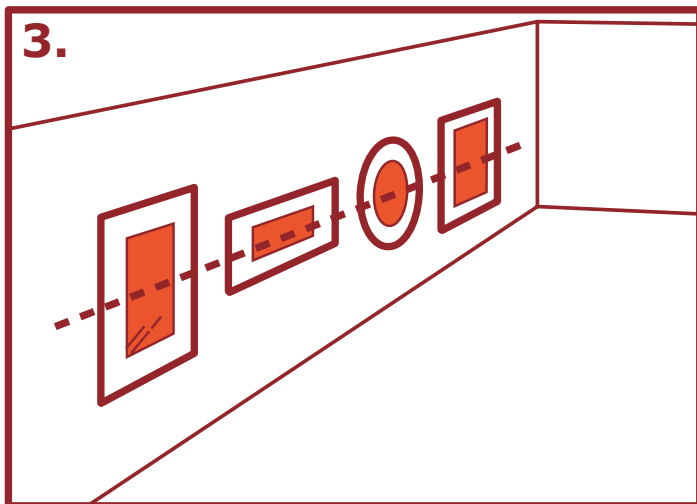
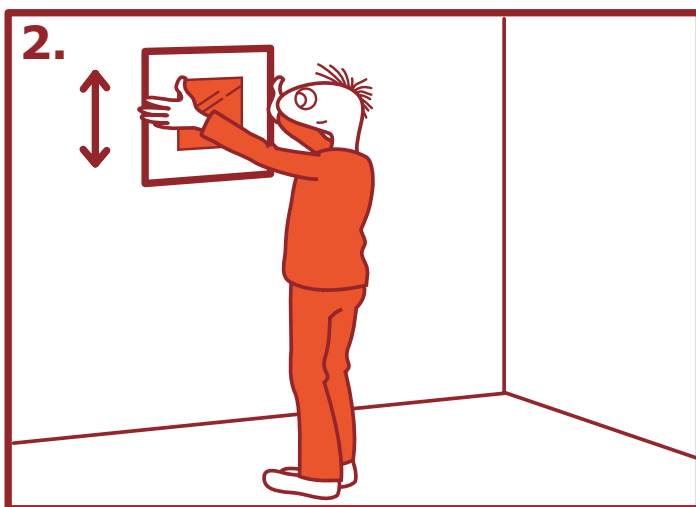
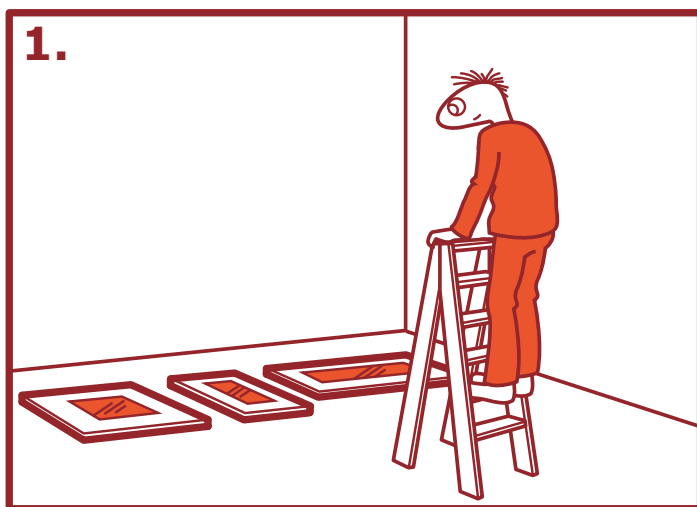


壁掛けアートの設置方法

アートをもっとも効果的に飾るために、ちょっとした下準備をしておきましょう。金槌やマスキングテープ、水準器、巻き尺、ものさしがあると便

利です。アートをどんなふう to 掛けるかも考えましょう。壁に適したフックやネジは、壁の材質によって異なります。



アートを設置する方法には、さまざまな手法があります。たとえば、ランダムに配置する方法、原画とポスターを並べる方法、壁に1枚だけ飾ったり、何枚かまとめて掛ける方法、棚に飾ったり、床に直接置く方法などです。

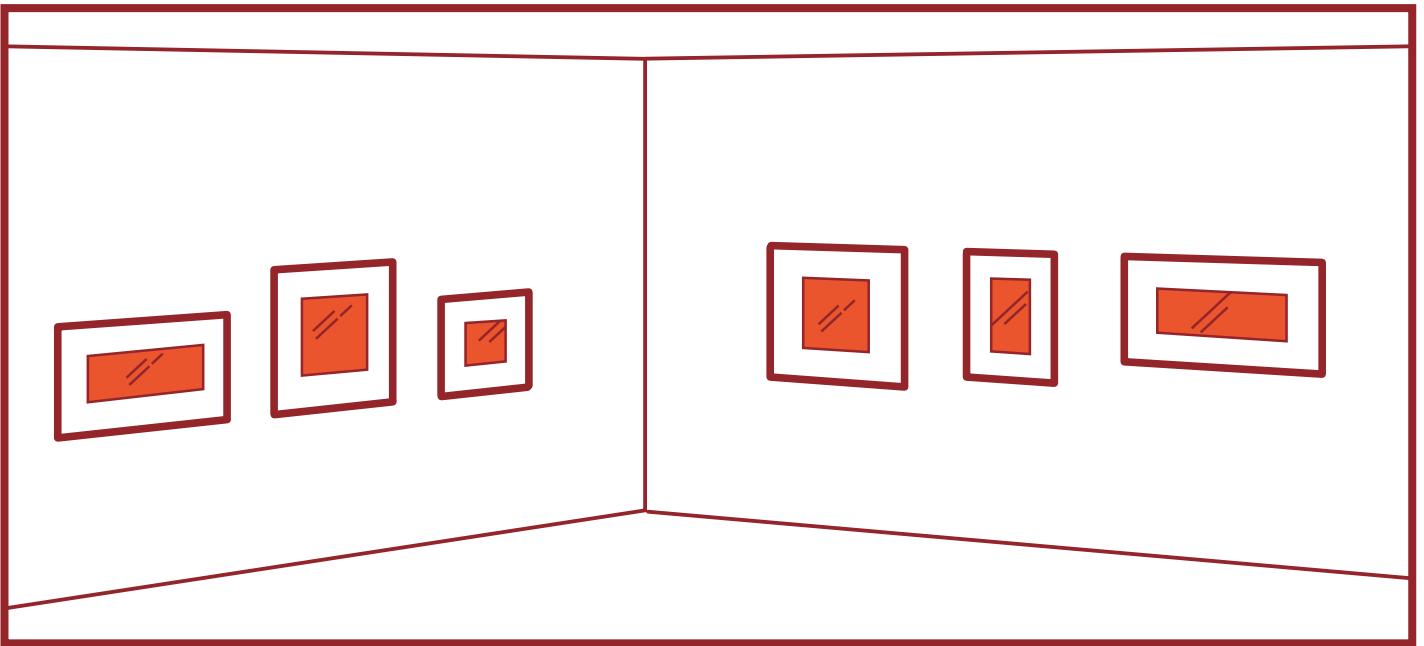
1. 最初に、設置したい壁の前でアートを床に並べてみましょう。さまざまな組み合わせをためして、いちばんしっ

くりくる組み合わせを見つけてください。脚立に乗って少し高いところから見てみると、全体の感じがつかみやすくなります。

2. 次に、アートの最適な高さを決めます。天井からの距離ではなく、床からの距離を考えるようにしましょう。アートの中心がだいたい目の高さにくるようにします。

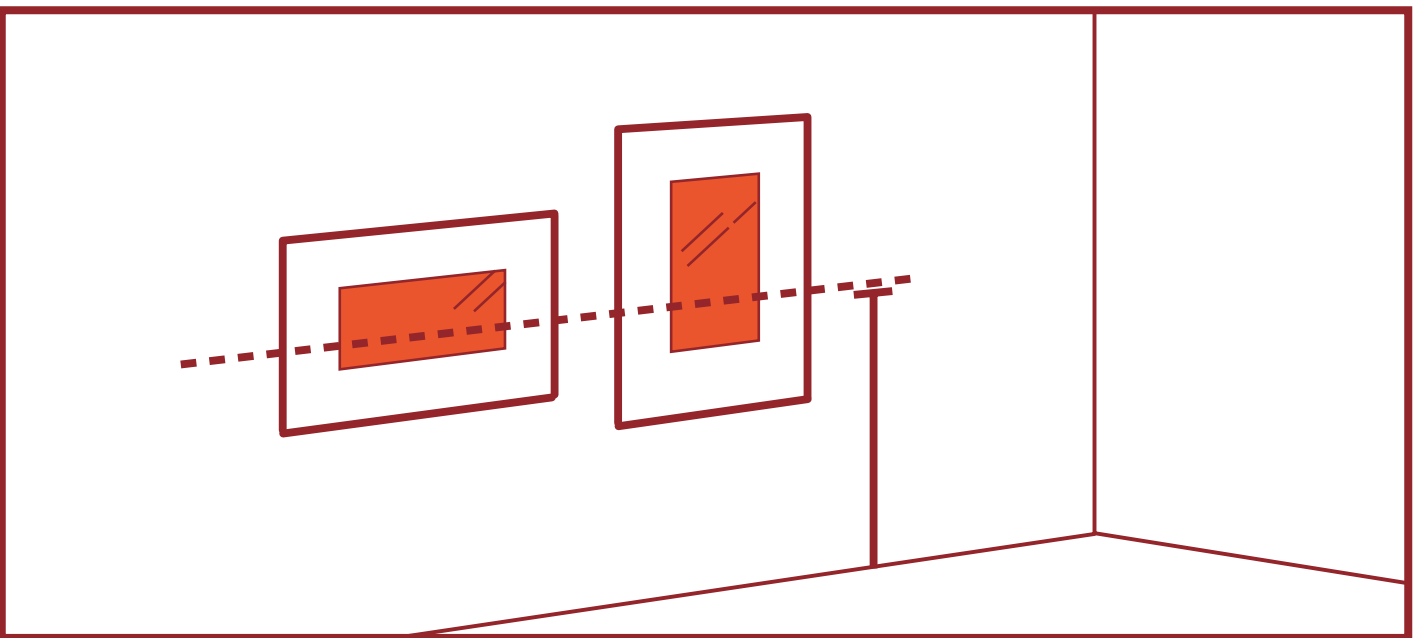
3. 部屋のなかを見渡して、壁沿いに直線を探しましょう。階段や廊下、広いリビングルームでは、それぞれちがってくるはずです。

4. 壁に掛けた作品をアート照明でライトアップすると、作品の躍動感と深みがさらに増します。ただし、ハロゲンランプを使う場合は必ず保護ガラスを装着して、作品の色あせを防いでください。



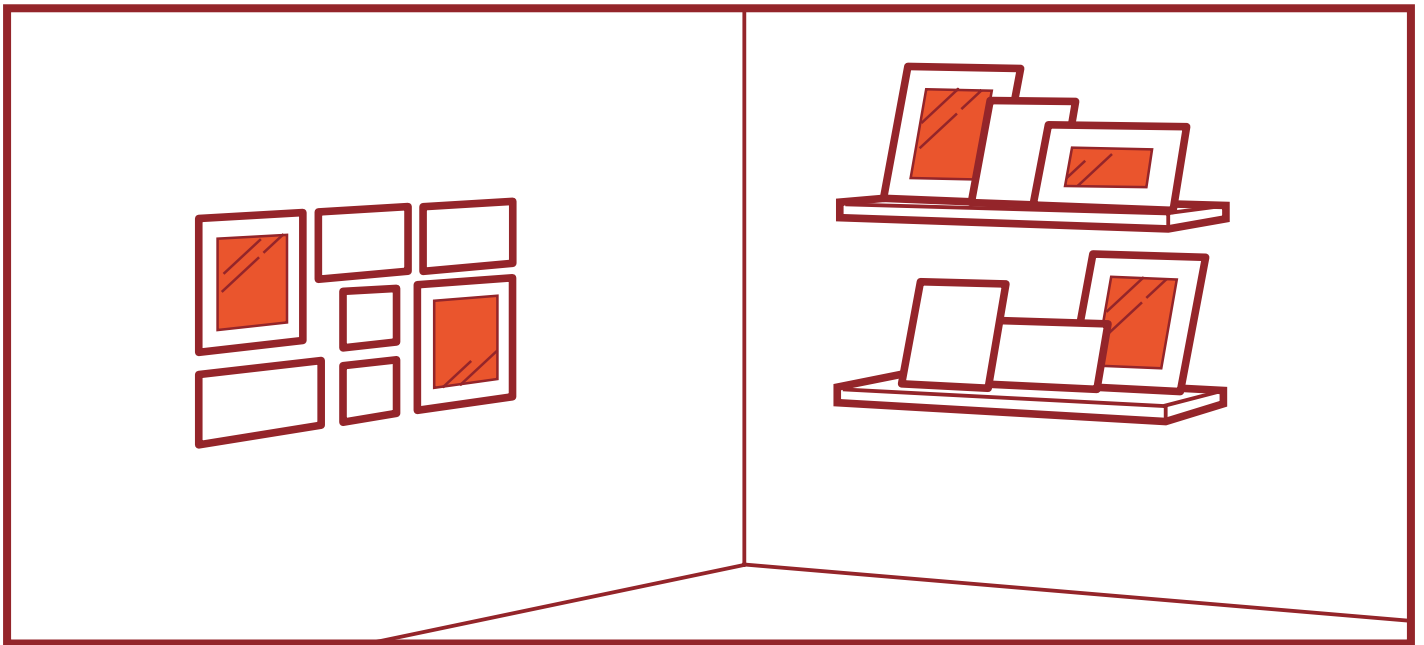
もっとも一般的な配置法は、フレームの下端あるいは上端のラインをそろえる方法です。室内にあるラインに合わせて、フレームのラインをそろえてもよいでしょう。

アートを配置するときに、窓枠やドア枠などにそろえる方法はおすすめできません。かたすぎる印象になり、作品から注意がそれてしまいます。



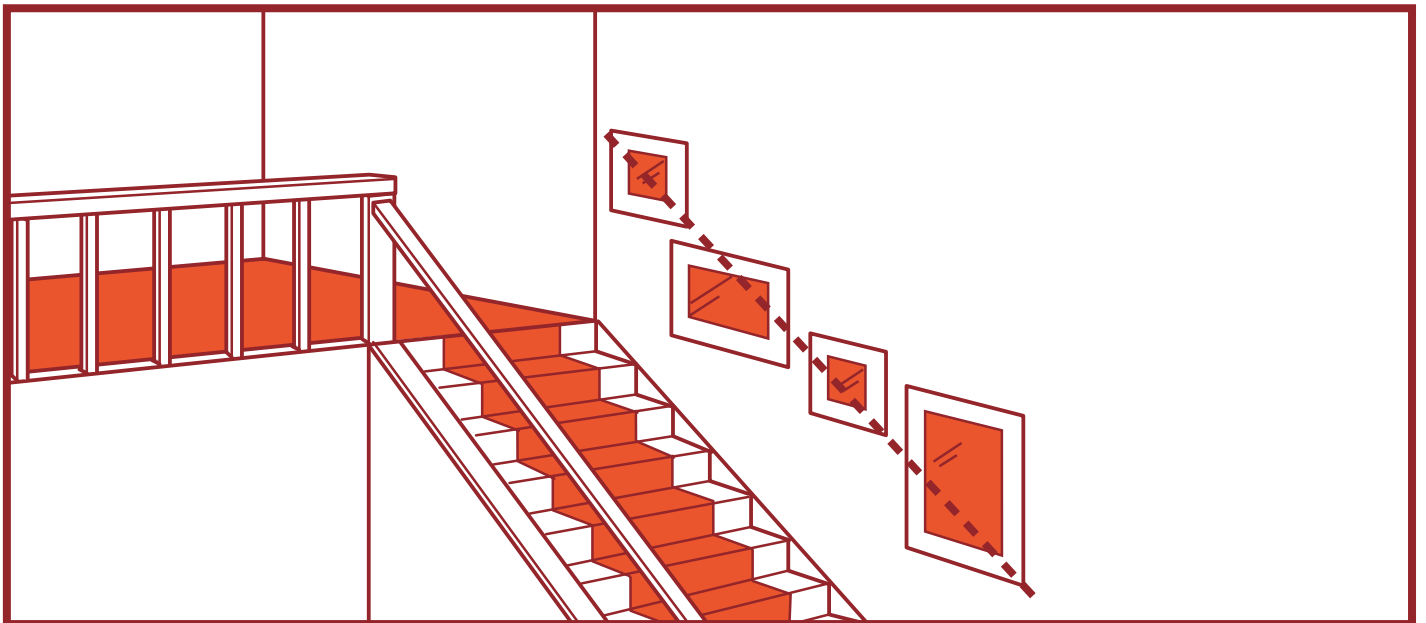
ギャラリーや美術館で作品を配置する場合は、一般に「黄金分割」あるいは「黄金比」にもとづく手法が用いられます。それを簡略化したのが、床から140cmの高さに想像上のラインを引く方法です。

アートの縦の長さを8等分して、アートの5/8が想像上のラインよりも上に出るように配置します。140cmでは低すぎるときや、天井が高い部屋の場合は、このラインを少し高くしてもかまいません。



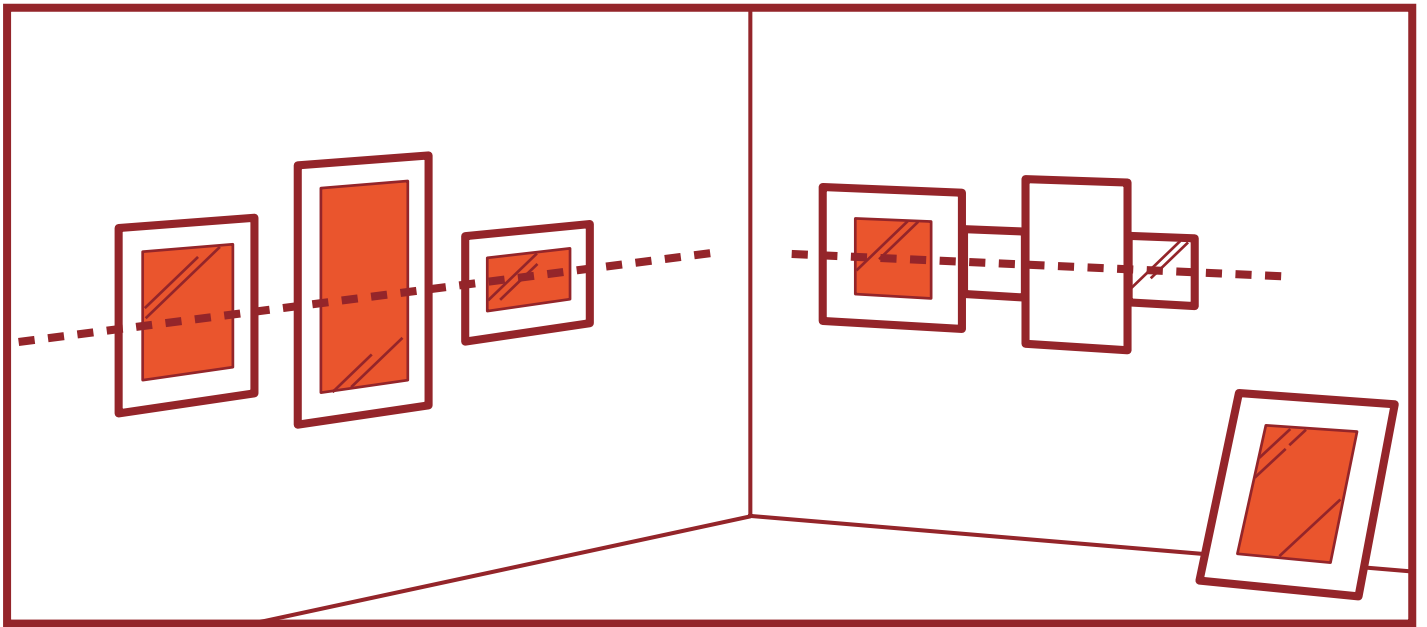
いろいろなサイズのアートがたくさんある場合は、コラージュのようにいくつかまとめて配置しましょう。小さなアートなら、間隔をつめて配置します。一般にアートのサイズが大きくなるほど、間隔も広めにとる必要があります。コラージュの外縁が、正方形や長方形といった一定の形になるように配置するのがポイントです。

アートがたくさんある場合や、頻繁にアートを入れ替えたい場合は、棚を設置してその上に置くという方法もあります。フレームが重なるように飾れば、お気に入りの作品に躍動感と深み生まれます。



絵や家族の写真を階段に飾れば、ひと味違った楽しみ方ができます。階段の傾斜に合わせて作品を配置しましょう。サイズのちがうものを組み合わせてもかまいません。その場合は、大きな作品を基準にして小さな絵を配置するようにします。

あまり印象が強すぎる作品は避けましょう。作品に目を奪われて、家族やゲストが階段から落ちてしまったら大変です！



アートのサイズがまちまちな場合は、想像上のラインがアートの中心を通るように配置してもよいでしょう。数が多い場合は、フレームの間隔をあけずに配置してみましょう。ちょっと変わった印象になり、自然とアートに視線が集まります。

大きなアートの場合、お気に入りの作品を全部飾れるようなスペースが見つからないかもしれません。そんなときは、アートを床に直接置き、壁に立てかけるという方法もあります。お部屋がいきいきした雰囲気になり、シンプルな飾り方でアートの印象まで変わります。

スポットライトやアート照明でライトアップすると、作品の躍動感と深みがさらに増します。電球のなかでいちばん忠実に作品の色調を再現するのは、ハロゲン電球です。ただし、ハロゲンランプを使う場合は、必ず保護ガラスが装着

されていることを確認してください。ハロゲン電球の光が直接あたると、作品の色あせの原因になります。また、絵や写真を設置する場合は、直射日光が当たる場所や暖房器具の真上は避けましょう。